

# 平成 20 年度 佐賀県こどもUD作品コンクール 入賞作品集

---



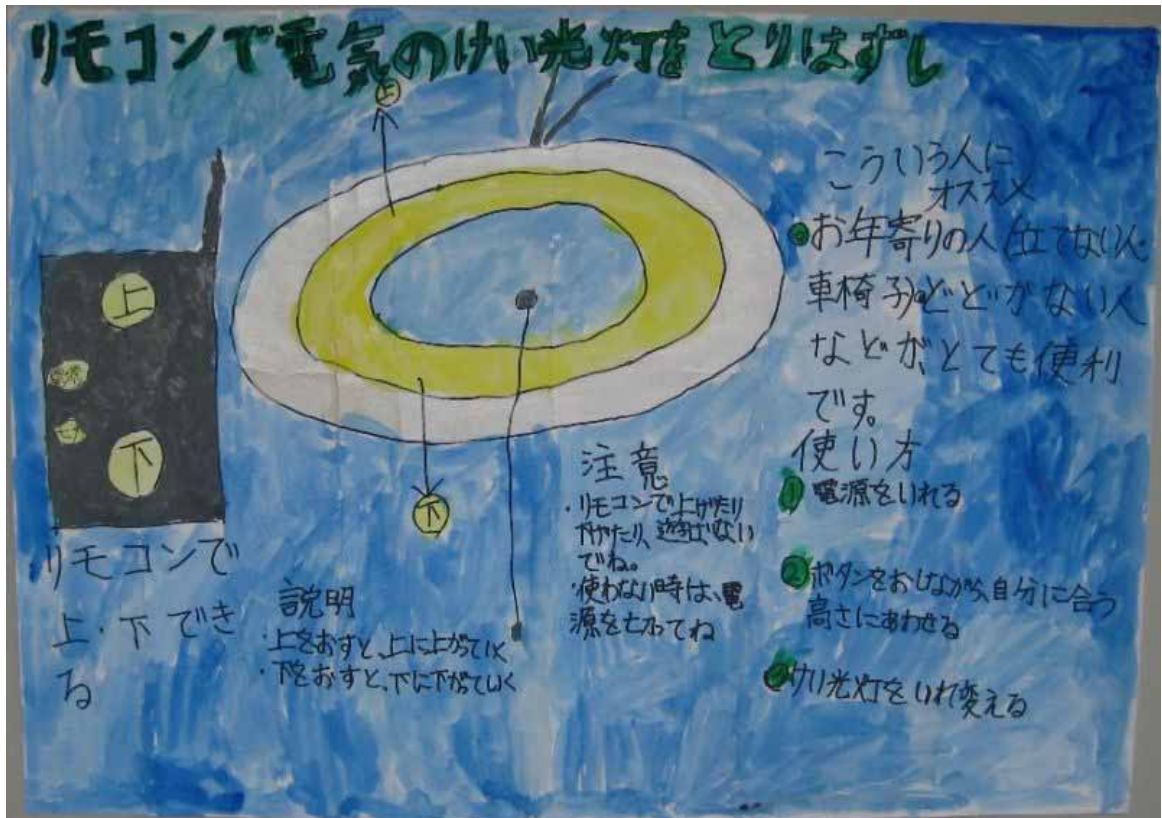
入賞者一覧

区分	部門	学校	学年	氏名	頁	
大賞 (知事賞)	アイデア作品	武雄市立山内東小学校	5年	渡邊 弘崇	1	
		佐賀市立鍋島中学校	2年	内川 陽菜	2	
	ポスター ・壁新聞	武雄市立武雄小学校	4年	副島 虎之助 田中 涼介 辻 啓嗣 松尾 智哉	3	
	作文	武雄市立山内東小学校	5年	中山 果林	4	
優秀賞	アイデア作品	武雄市立山内東小学校	5年	横尾 嘉之	5	
		武雄市立山内東小学校	5年	重松 千尋	6	
		佐賀市立鍋島中学校	2年	山田 千遥	7	
		佐賀市立鍋島中学校	2年	原田 麻瑚	8	
	ポスター ・壁新聞	武雄市立武雄小学校	4年	中村 生羽 藤崎 陽菜 山口 裕貴 中島 敦史 山口 幸太	9	
		武雄市立山内東小学校	5年	弦巻 建世	10	
		伊万里市立国見中学校	2年	藤田 恵里香 片岡 綾美	11	
		伊万里市立国見中学校	2年	草場 聡子 永田 千晶	12	
		伊万里市立国見中学校	1年	真鍋 亜里沙	13	
		作文	嬉野市立轟小学校	6年	中野 結歩	14
			武雄市立山内東小学校	5年	古賀 真里奈	15

知事賞

「リモコンで電気のけい光灯とりはずし」

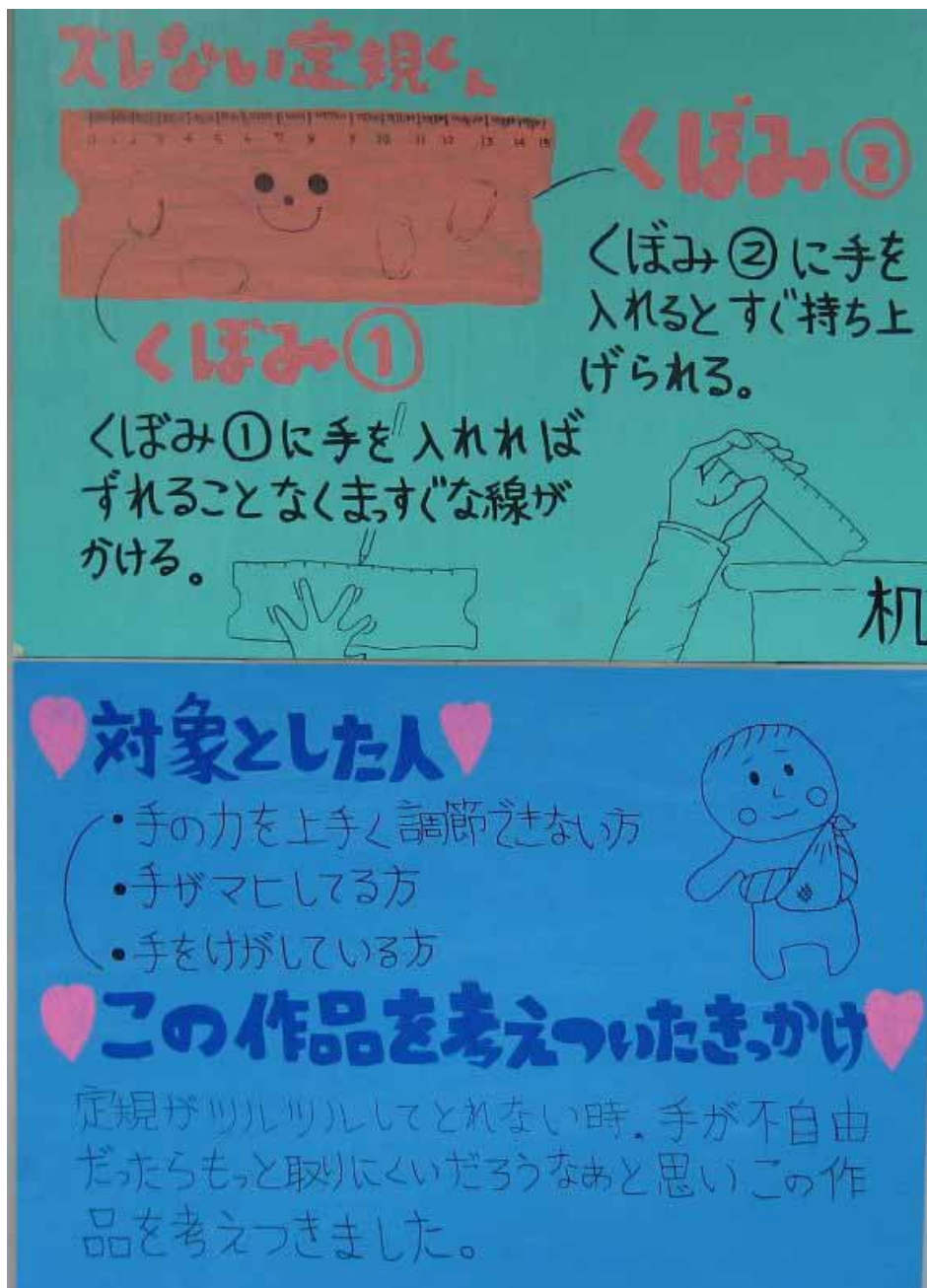
武雄市立山内東小学校 5年: 渡邊 弘崇



知事賞

「ズレない定規くん」

佐賀市立鍋島中学校 2年:内川 陽菜



知事賞

「チーム hosupitaru の活動ほう告」

武雄市立武雄小学校 4年:副島 虎之助

田中 涼介

辻 啓嗣

松尾 智哉



## 知事賞

## 「ユニバーサルデザインを広めよう！」

武雄市立山内東小学校 5年:中山 果林

私は総合学習で、アイマスク体験、車いす体験、疑似体験などいろいろな体験をして障害をもつ人や高齢者の生活について学習してきました。総合学習を通して、障害者の人のために『ユニバーサルデザイン』・『バリアフリー』という工夫があることを知りました。

私は、町を歩いているとあちらこちらで、『ユニバーサルデザイン』が使われているんだと、注意深く見るようになりました。

けれども、実際の状況は、点字ブロックの上に自転車が置いてあったり、スロープで遊んだりしている子どもがいます。こんなことをしたら、障害者の人々にとって、すごく困るということを体験を通して実感しました。

そして、私は、こんな光景を目にしました。お店の駐車場に、障害者のための駐車場所があります。障害者のための駐車場所以外が満車だったとき、お店に来たお客さんは、障害者のための駐車場所には、車を留めずに、通り過ぎて、となりの公園の駐車場に車を留めて、お店まで歩いて来たのです。私は、障害者の人のことをわかってきているんだなあ、すごいなあと思いました。私は、その時から、こんな、やさしい人を見習って、相手に、思いやりをもって生活したい!と思うようになりました。

しかし、その一方で、障害者のための駐車場所に、障害者ではない人が車を留めているときもありました。私はとてもガッカリしました。私も、障害者の人に迷惑になるようなことをしないようにしたいと思います。

さらに、点字ブロックの上に自転車を置いたり、スロープで遊んだりしている子どもがいるということは、『ユニバーサルデザイン』をあまり知らないという人たちがまだ、多くいるということではないでしょうか。

みんなが、『ユニバーサルデザイン』のことをもっと知らなければいけないと思います。

私は、総合学習での、調べ学習や体験を通して、『ユニバーサルデザイン』のことを一人ひとりを大切にしていくという考えからも、一人でも多くの人に知ってもらいたいと思いました。そして、障害者の人たちにとっても、私たちにとっても、安全で安心できる生活を目指していく必要性を感じました。全体で、『ユニバーサルデザイン』について考え、行動できればいいと思います。そのために、いつも、思いやりの心を持たなければいけません。

私も、はじめのころは、少しドキドキして、障害者の人がこまっていたても、声をかけることができませんでした。でも、思いきって、声をかけてみると、障害者の人は、

「ありがとう。」

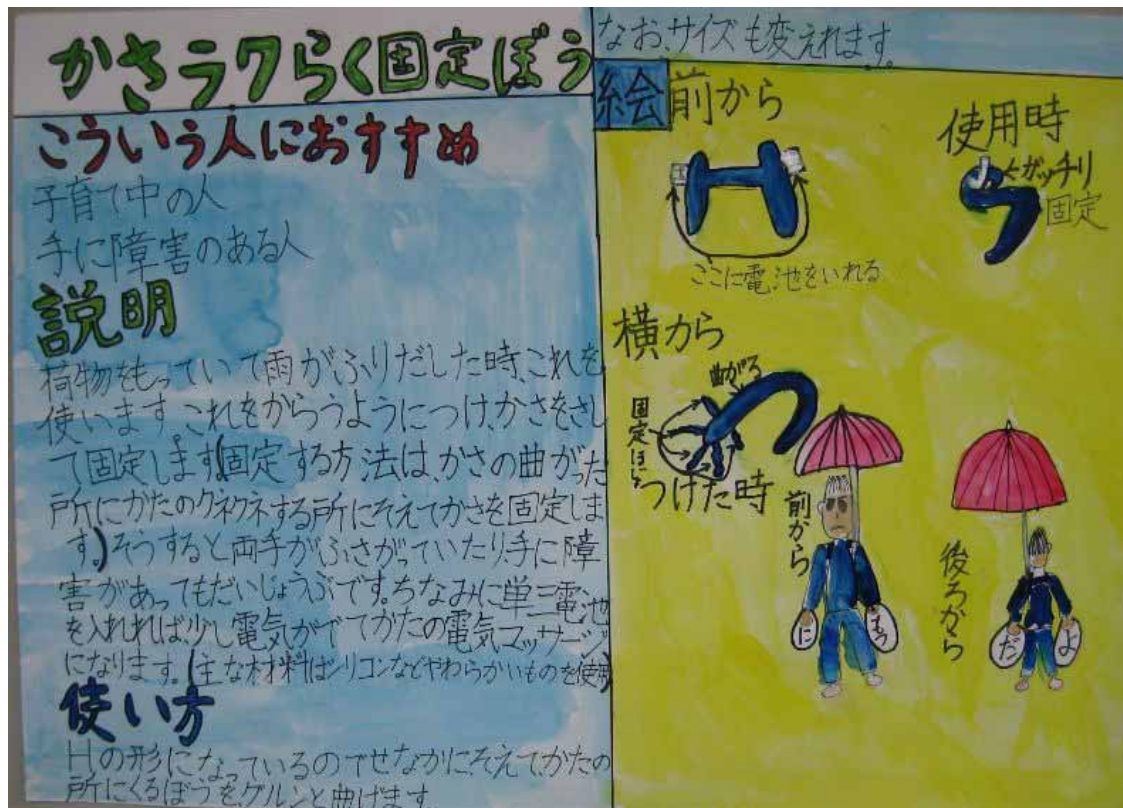
と、言いました。私は、障害の有る無しに関係なく、人と人とのつながりを感じました。

私は、これから、思いやりの心がいっぱい社会になればいいなあと思っています。

優秀賞

「かさラクラク固定ぼう」

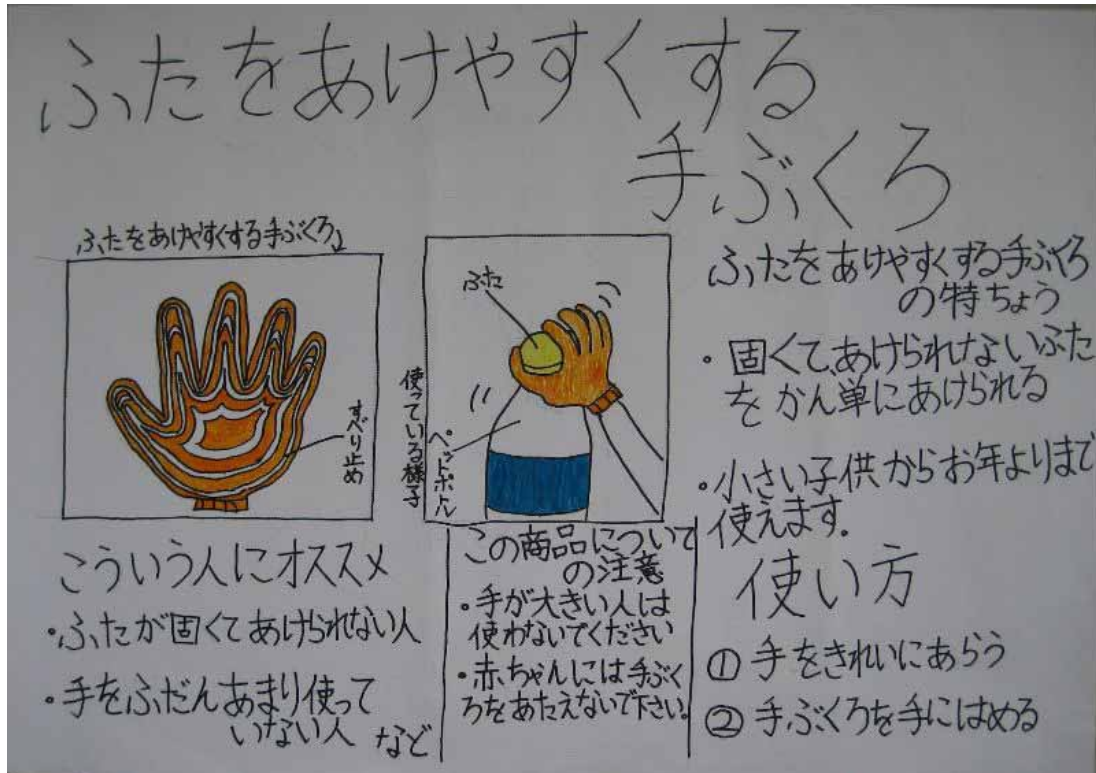
武雄市立山内東小学校 5年:横尾 嘉之



優秀賞

「ふたをあけやすくする手ぶくろ」

武雄市立山内東小学校 5年:重松 千尋



優秀賞

「ラクチンがさ」

佐賀市立鍋島中学校 2年:山田 千遥

# ラクチンがさ

こういう人に  
**オススメ**

- ・荷物などをもっていて両手がふさがっている人
- ・手の力が弱い人 など

**接合の仕方**

- ①おりたたみかさの柄の部分をとりはずします。
- ②持ち手の上の部分①にとりつけます。

できたものを腕につけます。

**注意事項**

- ①風の強い日には使えません。(ケガをするおそれがあるため)
- ②おりたたみかさと持ち手を接合するときに手をはさまないようにして下さい。
- ③10歳以下の方は使えません。

優秀賞

「簡単にあけレール」

佐賀市立鍋島中学校 2年:原田 麻瑚







優秀賞

「ユニバーサルデザインという考え方」

伊万里市立国見中学校 2年:藤田 恵里香

片岡 綾美



優秀賞

「私の街のUD」

伊万里市立国見中学校 2年:草場 聡子  
永田 千晶

**わたしの街のUD**

ユニバーサルデザインとは、ユニバーサルデザインは、誰もが利用できるデザインのことです。年齢や障害の有無などにかかわらず最初から利用できるだけの人が利用可能であるデザインをいいます。

**ユニバーサルデザインの7つの原則**

- 1 公平性
- 2 自由度
- 3 単純性
- 4 分かりやすさ
- 5 安全性
- 6 省体力
- 7 スペースの確保

**新しい歩道緑化 視覚障害者誘導ブロックの設置**

この学習として佐賀県でもユニカスロープになったらいいな、ユニカスロープが進められて、思いました。その他に、いることには、フリしました。びょうきほほ危ないな、と思いが、登下校しているとき、歩道しました。考えてみれば、いっしょに歩きます。そのときに、私などところに障害があります。私たちは残りますが、車イスの人これから、UDがたかさんでは、どうやって夜ののがなと思え、佐賀県もよりよい県になります。私は歩道橋などの階段に、なっただと思いました。

発行 国見中学校二年 草場聡子  
発行日 平成二十二年八月十日  
永田千晶

今回、壁新聞にとりくんで、レイアウトが大変で難しかったけど、勉強になったと思います。

優秀賞

「あなたの一步と私の一步ちがうということ忘れずに」

伊万里市立国見中学校 1年:真鍋 亜里沙



優 秀 賞

「ユニバーサルデザインのまちづくり」

嬉野私立轟小学校 6年:中野 結歩

私は、去年、初めて「ユニバーサルデザイン」というものを知りました。そこで考えたことは、

『ユニバーサルデザインってどんな人のためにするの?』

ということ。私の考えたところでは、目が見えない人、足が不自由な人、妊婦さん、おじいちゃんやおばあちゃん。考え出せばきりがありません。

その人達に沿ってまちづくりをしていくには、たくさんの時間がかかります。たくさんのお金も必要です。それに作ったりするには技術を持った人しか出来ません。でもユニバーサルデザインとは、その人達が暮らしやすいまちづくりにしていくことです。では、私達には、いったい何が出来るのでしょうか。

そこで私は、自分達に出来ることを一つだけ考えてみました。

その一つとは、誰もがよく乗るバスで出来ること。バスは、小さな子供から高校生、おじいちゃんやおばあちゃんまで幅広い年齢で活用されています。やはり、そこで出来ることといえば、バスの席のゆずり合いです。こしが曲がっているおじいちゃんやおばあちゃんは、やっぱり席にすわりたいと思っているだろうし、お腹が大きい妊婦さんだっらずっと立っているのは、きついと思います。そこで誰か一人でも気づいて、

「どうぞ。」

とゆずってあげるとその人は、すごく感謝すると思います。だまって「すっ」と席をゆずってあげるのもいいことだと思います。その人の思いがゆずった人に伝わるのなら。

この『ゆずり合い』ということを考えて私は気付きました。ユニバーサルデザインには人々の思いやりが大切なのだということ。

これからは、一人ひとりが思いやりを持ってユニバーサルデザインのまちづくりをしていけたらいいなと思います。

優秀賞

『ユニバーサルデザイン』について

武雄市立山内東小学校 5年:古賀 真里  
奈

私は、これまでUDには、興味が全然なかったけど五年生になっていろいろ調べて興味を持ちました。

五年生になってからアイマスク体験や車椅子体験などさまざまな体験をたくさんしてきました。その中でも車椅子体験と手話体験が一番心に残っています。車椅子体験では、段差を登ったり、マットの周りを自分で運転したりしました。車椅子のひろげ方やたたみ方を初めて学びました。あと、階段をおりる時には、後ろ向きになっておりなければいけないと分かりました。タイヤは、取りはずしができるようにになっているそうです。私は、車椅子にのった事がなかったのでどんな所が工夫されているのか分かりました。車椅子の方と同じ目線で話すことが一番大事だと思います。車椅子にのった事で車椅子の方の気持ちが分かったような気がしました。もう一つは手話体験です。実さいに耳の聞こえない方が学校に来られてたくさんの事を話して下さいました。まず手話の目的はコミュニケーションです。手話でコミュニケーションをとるのは、むずかしいと思います。耳の聞こえない方には、不便なことがたくさんありました。電話にでも聞こえないし、家に誰かが来た時も分からないし、テレビも聞こえません。だからもしとなりの家が火事だったとしたらちよくせつ教えに行くしかありません。耳の聞こえない方は、手話・身ぶり・空文字・筆談・表情・口話・指文字の七つの手段を使って生活していらっしゃいます。

次は町にあるUDとその使い方についてです。町には、たくさんのUDがあります。その中から自動販売機とカウンターの二つの事を出します。一つ目は自動販売機のことです。

自動販売機では、お金を入れる所やボタンを押す所、商品を取り出す所を車椅子の人が取れるくらいに高くしてあります。

二つ目は、カウンターです。カウンターでは、カウンターの高さを低くし膝が入るように奥行きを作って車椅子の利用者が困らないようにしてあるという事です。

その次にお年寄りや障害者の方に聞いた事です。耳の聞こえない方に聞いたのは、話をしていて二人とも耳の聞こえない人で手話で会話をしていて近くの子供から見られていたそうです。お年寄りや近所の方に聞いた事は、私のおばあちゃんは、いつも足が痛いと言っています。私のおばあちゃんに聞いてみたら足が痛い人にも簡単にせんとく物をほしたりする物がないかと言っていました。

その次にはお年寄りや障害者の方やお腹に赤ちゃんがいる方を見かけたら声をかけて助けてあげようと思いました。もし自分が障害をもっていて困っていたら声をかけて助けてもらいたいので困っている人を見かけたら助けてあげようと思いました。

これからは今よりもっとたくさんのUDがでて困る人がいなくなるようにたくさんの方が障害者やお年寄りの方に声をかけて困る人がいない日本にしたいです。

最後にUDを調べて本当に良かったと思いました。だから調べた事を役に立たせて障害者の方やお年寄りの方おなかに赤ちゃんがいる方が安心して住むことができるようにしたいです。